

第5回 三重県地方創生会議の概要

1 開催状況

○日時：平成29年6月12日（月）16：15～18：15

○場所：三重県勤労者福祉会館6階講堂

○出席委員：17名

朝尾 高明	三重県森林組合連合会 代表理事会長
池村 均	三重県農業協同組合中央会 専務理事
石阪 督規	埼玉大学 教授
伊藤 恵子	三重県経営者協会 副会長
伊藤 理恵	特定非営利活動法人マザーズライフサポーター 理事長
岡本 直之	三重県商工会議所連合会 会長
金森 美智子	日本労働組合総連合会三重県連合会 副会長
駒田 美弘	三重大学 学長
菅谷 龍太	地域で頑張る企業・NPOを“つたえ”“つなげる” 学生レポーター「ガクレポ」
杉浦 礼子	名古屋学院大学 准教授
須田 俊明	日本放送協会 津放送局 局長
谷口 ちほせ	三重県商工会連合会 女性部連合会 会長
服部 弘	三重県漁業協同組合連合会 常務理事
林 雅彦	三重労働局 局長
松田 茂樹	中京大学 教授
村田 典子	三重県中小企業団体中央会 三重県中小企業レディース中央会 副会長
鈴木 英敬	三重県知事

2 資料説明（事務局より）

3 主な意見（要約）

（自然減対策に関する意見）

○全体

- ・ 国と県、市町のやっている事業がどう連携してどう効果が出ているのかがもっと見えてくると、政策の効果が上がるのではないか。
- ・ 平成28年に三重県はプレゼンスを上げた。出生率回復に寄与するはず。理由は実感経済と将来見通し。両方合わさって結婚意欲や出産意欲が上がる。三重県は所得水準の低いところで出生率が回復できていないところに問題があるのではないか。未婚や既婚夫婦で収入が低い階層の人の、稼ぐ力を上げることが大事。そこで、提案として、低所得でも一生懸稼いで生活が成り立つ

ている人のこともアピールし、仕事をすれば確実に生活できるというロールモデルを示すべきである。

- ・ 県内中小企業で人手不足ということだが、若者が職業教育訓練を受けていないことが要因であれば、県も取り組むべきである。
- ・ 子どもが元気に育っていると感じる割合は農林水産業の人が一番高い。農林水産業を盛んにすることが子どもを元気にする有効な手段と感じる。

○1 ライフプラン教育の推進

- ・ 不妊の正しく細かな知識を持つための啓発は重要。若い人がしっかりとした知識を持てば、自分で判断して行動することになり、少子化の減速につながる。

○5 若者の雇用対策

- ・ 企業にとってつらいのは若者が若いときに会社を辞めること。大学の正規の授業にインターンシップを入れるべき。
- ・ 女性のロールモデルについて、学生に苦労話だけを強調すると、学生が現実の厳しさに気持ちが冷めることがある。目的を明確にして取り組む必要がある。
- ・ 企業説明会などのイベントは名古屋など愛知県で行われている。三重県では人数が集まらない。愛知県は大学間の交流や情報共有などがとても進んでおり、三重県の大学も、もっと大きなコミュニティを作って企業情報を共有する必要がある。
- ・ 魅力ある企業とは何かを考えて、企業は大学のセミナーに参加してもらいたい。また大企業においては、三重県の地域枠採用で三重県で働けるようにしてほしい。
- ・ 働き方改革を含めて人が集まるような企業をいかに作っていくかが大事。三重県を知ってもらい、また、三重県に魅力を感じてもらい、さらに三重県でどんな企業や働き方があるのかを学生から探してもらえるような、三重県を売るスタイルの企業説明会を首都圏で行ってはどうか。
- ・ 賃金水準の違いや都会に住みたいという意識の若者を県内に留めるには、やりがいや、三重県でしかできない魅力をアピールできるかどうか重要。
- ・ 若者が正規雇用で働き続けられるように、就職活動の際には企業情報を適切に開示することが重要。

○6 出逢いの支援

- ・ 出逢いの支援は広範な支援体制が必要だが、収入の壁がある。
- ・ 企業従業員、住民、大学生を対象に結婚意識調査を行う予定。その結果を見

て今後の課題を検討していく。人口を増やすにはやはり結婚のチャンスを与える必要がある。

○10 保育・放課後児童対策などの子育て家庭の支援

- ・ 子育て世代のため、保育所整備の推進が重要。
- ・ 子育ての環境として、老人ホームの横に保育園があると良いと思う。
- ・ 他の予算が減っている中で待機児童対策、保育所対策の予算が圧倒的に多い。三重県の予算がそこに集中していて他に回っていないように見える。効率化できるものは効率化すべき時期に来ていると思う。

(社会減対策に関する意見)

○全体

- ・ 社会減対策は全国の自治体で競っているようだが、リゾート法やふるさと創生でも競って無駄遣いになった例があった。社会減は国全体の問題なので効果的な取組のためには自治体の枠を取り払い、一歩進んだ連携が必要。

○13 若者の県内定着の促進

- ・ 三重県の14の高等教育機関は北勢部に偏り、内容も偏っている。複数の大学で研究会を立ち上げているが、他大学との協力を深く掘り下げていく必要がある。
- ・ 大学で三重県出身の学生に地元に戻るのかと聞くと、多くの学生は帰らないと言う。一番の理由は三重県には能力を生かせる仕事が無いこと。以前の調査で、高校時代のネットワークがその後の人生を大きく左右するという結果が出たので、中学高校などネットワークがあれば戻ってくる可能性が高いのではないかと。また重要なのは三重県の情報絶えず学生に与え続けること。サミットなどがあると三重県出身という誇りが培われ、三重県のために頑張るという意識も出てくる。子どもの頃から三重県人としての誇りやプライドを身に着け、ネットワークを作れるようにすることが重要である。
- ・ 多様な人材を知ってもらう取組を進めることが重要。三重のことを知ってもらわないと三重県には残ってくれない。各教育機関が地道にやっていく必要がある。
- ・ 三重大学で協同組合の取組などの講義を各団体が行っている。学生に一次産業、特に水産業に理解を深めてもらい就職してもらいたいと考えている。
- ・ 三重県で就職する人を増やすには、企業の事業に関する情報以上に企業で働いている人に関する情報が重要。企業に自分が尊敬するような人物やなりたい人物がいるかどうか重要であり、魅力的な人がいれば、魅力的な企業になり、若者が入ってくる。

○14 子どもの能力の育成と人口減少に対応する教育体制の確保

- ・ 小学校高学年から中学生に向けたキャリア教育が必要である。
- ・ 中高生は社会経験が浅いので、キャリア教育については目的をもって取組を進めることが重要。

○15 しごとの創出

- ・ 農業は雇用されている場合なら収入は 300 万円に届きそうだが、自分から創業するには元の資本が必要なので難しい。生産振興に力を入れ、そこで若者にやりがいをもって定着してもらうことが必要。
- ・ 食の安全安心の観点からも、A E L（養殖のエコラベル）の認証をイセマダイ、イセマグロで受けた。さらに、H A C C P の取得に向けて取り組んでいる。
- ・ 県産農林水産物の高付加価値化については、プライドフィッシュの登録が有効と考え、マハタなどで申請している。全国のプライドフィッシュファンに周知して今後の推進に役立てたい。
- ・ 林業はいろいろな産業に影響しており地域の雇用力を確保している。熊野南部の林業資源は 1100 万^m、さらに年間 12 万^mの成長力で、使うのは 3 万^m。つまり県内には林業で仕事する場がたくさんある。
- ・ 答志島の漁業のワーキングホリデーでは、無報酬で旅費も自己負担ではあるが、全国から 60 歳以上の高齢者が集まり一週間くらい作業に従事する。地方創生では生きがいになる仕事を作ることが重要である。

○16 産業人材の育成

- ・ 漁業関係では、漁師塾運営や漁協女性部活動の支援を行っている。
- ・ 林業は若い人や I ターンの人など希望者が意外と多い。しかし働く場所が傾斜地であるため、都会から来た人は苦勞し、事故が起こったりする。
- ・ 人材育成を第一目標にしながら一歩ずつ進むことが大事。

○17 働く場・働き方の質の向上

- ・ 乳幼児を持つ母親の 400 名ほどのネットワークで、コアのスタッフ 25 名の中で子どもの数が平均 3.1 名となった。最多は 7 名。子供を産めば産むほど所得が上がるという働き方を目指している。現在 80 社の企業と提携し、乳幼児の母親の価値を武器にして活動している。女性は子どもを産めば産むほど社会に出にくくなる期間があるが、多くのスキル・価値を持っている。ライフのなかで仕事をつくり、仕事しながら孤立育児をなくす働き方を進めている。子どもたちも母親の働く姿を幼少期から見て育つ。仕事にとっても子育て

ては良いし、子育てにとっても仕事は良いということを実現できれば女性が活躍できる。

- ・ 女性の活躍推進のアワードは三重テラスでもやってもらいたい。三重の女性のがんばりを東京で発表する機会があっても良いと思う。
- ・ なるべく柔軟な働き方を提案できることが必要。特に女性は賃金よりもいかに自分の生活にあった時間で働けるかを重視している。
- ・ 正社員の転換につながる取組も引き続きお願いしたい。来年4月の有期雇用契約者の無期契約への転換制度について、正社員につながるよう意識改革をお願いしたい。
- ・ ここ数年、障がい者雇用率が上がっており、三重県全体の意識の高まりを感じるので、少子化や結婚、子育てなどの意識の高まりにもつながるような仕掛けが必要と感じる。
- ・ 自治体の長のリーダーシップが必要。ワーク・ライフ・シナジーという相乗効果を発揮するようにしていくことが働き方改革につながる。働き方改革は生き方改革につながっていく。
- ・ 高齢者、障がい者が働きやすいようにして求職者のパイを増やすということと、柔軟な働き方によって企業自身の魅力づくりをすることが重要。
- ・ 三重県は暮らしやすく豊かな県。人柄も良い。幸福感が高い県だと思うが、魅力が伝わっていないのではないか。そこに力を入れるべき。

○18 総合的な移住の促進

- ・ 南部はUターンやIターンに力を入れているが、生活支援と雇用をセットにした支援が弱いと思う。事業継承者を募集する形で移住者を求めるのが良い取組だと思う。この点についてはハローワークでも協力できる。

○20 いきいきと豊かに暮らせる地域づくり

- ・ 商工会は「三重を知ってください。高齢者になっても住みやすい町です」とPRしていきたい。
- ・ 菓子博で地域が活性化し、チャレンジすればやっつけられるという認識が出てきている。伊勢は空き家バンク等の問題もあり、中心市街地活性化協議会を作り、空いた町の真ん中で若い人たちが活性化に取り組んでいる。南勢地域はみんなが次へと引っ張っていく努力をすることが必要。

○21 地域資源の活用による交流人口の拡大

- ・ 三重県の入込客数や観光消費額が良くなっている。県南部の雇用が増える素地があるということ。観光だけではなく、農業や水産業など食に関わる産業で人とお金が循環する仕組みを県南部で作ることが重要。

- ・ 熊野には多くの大学生が丸山千枚田の田植えや熊野花火などで応援に来てくれる。その中で熊野に住んでくれる人もいるし、いろんな出会いもあるので、たくさんの出会いの場を作ることが大切。

○その他全体に関わること

- ・ 子ども手当を工夫するなど、効果のある施策のヒントや高齢者の活用に関する記述があると良い。
- ・ 各市町に対して三重県の取組を認識してもらうことが重要。
- ・ 目的をしっかりと理解したうえで事業を推進することが重要であり、取り組んだかどうかという結果だけのレポートにしてもらいたくない。
- ・ 特殊な業務形態の事業ではみえの育児男子プロジェクト、育児休業制度、イクボス設置、ワークライフバランスができていない。関係者と協議する必要がある。
- ・ 魅力ある県庁にしてもらったらどうか。例えば魅力ある食堂にするとか。県外からたくさんの方が来るので土産物とか買っていくのではないか。
- ・ 去年は伊勢志摩サミット、今年は菓子博だった。これからは、「皆が笑顔で住みたい三重にしよう。」をキャッチフレーズに、いろんな場面でこの言葉を使用していくことを提案したい。
- ・ 生活できる、家庭を持つことができる賃金を受け取れることが何より重要。